

服飾学科・テキスタイルデザインコース

1. 課程修了時の能力水準

ディプロマポリシーで定められているコースの専門職業人の人材育成を目標としている。

コースの課程修了時に達成されることが期待される能力の水準は「学生の学修成果の評価の方針（アセスメントポリシー）」の表に定められている水準である。

この能力水準の測定は、中央職業能力開発協会が作成したアパレル分野の職業能力評価基準中の【アパレル企画】【アパレル設計】【アパレル販売】の「商品計画の策定」「アイテム・素材構成の設定とファブリケーション」の各能力ユニットのレベル1・2の能力基準を参考とする。

2. 各年次の能力水準

多くの卒業生に関わっている企業や卒業生の意見を基に各学年における到達目標を定めている。
GPA 制度の評価方法は、科目の成績を5段階で評価したものに、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0、のグレードポイント（GP）を付与し、奨学金の選抜や卒業時の代表の選考等に活用している。

2年次：専門コースの基礎知識における学力到達目標

- ・織物制作において基本的な制作に関わるデザイン、設計、制作工程と技術、道具・器具について理解し、基本的なテキスタイル作品を自立して完成することができる。
- ・染織作品（繊維、糸、布）、織物制作、染色の染法、制作工程と道具・器具について理解し、基本的な染織作品を自立して完成することができる。
- ・アパレル素材と関連して考え、捉えることができる基礎知識
- ・テキスタイルとアパレル商品製造に関する基本的な知識
- ・デザインコンセプトを構築し、発表できる能力
- ・作品の完成度を高めて仕上げる意識の育成

: 企業の実務認識をもつ

- ・テキスタイル関係の工場を見学する事で企業の実務認識を理解する（全員）

: 学部評価としての検定

- ・色彩能力検定3級（全員）
- ・ジーンズソムリエ（希望者）
- ・タオルソムリエ（希望者）

: コンテスト参加

（学内）・コース内コンテスト・・・審査員：学外1名

: 評価基準（テキスタイルデザインⅠ・Ⅱ、ダイイングテクニックⅠ・Ⅱ、素材設計論Ⅰ・Ⅱ）

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢	…10%
基礎課題	…30%
応用課題	…30%
定期試験	…20%
プレゼン能力	…10%

: 評価者

(学内) テキスタイル科目担当者合議で評価

(学外) なし

3年次：専門コースの応用知識における学力到達目標

- ・織物制作：応用課題の説明を理解し、デザイン考案、設計、素材の選択をし、修得した技術（先染め）によって完成することができる。
- ・プリントデザイン：デザインの考案とそのデザインを手描きで表現できる。
- ・ニット：ニットイング&CADシステムの基本を理解し、操作技術を修得して、柄編や部分からニットCADシステムによる基本的な作品が制作できる。
- ・画像表現：テキスタイルデザイン専用シミュレーションシステムの基本操作を修得する。絵画ソフト（Photoshop、illustrator）での画像の作成（テキスタイルCG）、構成、色彩の使い方など、CGスキルによる画像表現ができる。
- ・素材分析：布・糸・繊維を観察、測定によって数値の読み解きができる。アパレルアイテムと関連させ考察することができる。

：企業の実務認識をもつ

- ・全員必修：テキスタイル産地見学旅行を実施し、テキスタイル企業及びアパレル企業の認識を深める。

：学部評価としての検定

- ・色彩能力検定2級(全員選択) 一般財団法人ファッション教育振興会
- ・繊維テキスタイル認定3級(全員) 一般財団法人ファッション産業技術継承協会
- ・ジーンズソムリエ(希望者)
- ・タオルソムリエ(希望者)

：コンテスト参加

(学外)・ジャパンテキスタイルコンテスト 主催：一宮市、尾西毛織工業協同組合その他
後援：経済産業省(希望者)

- ・「中国ネクタイ名城」杯 全国シルクプリントデザインコンテスト
- ・すみだ「Somezome」展 東京都繊維染色協同組合主催(学外)

(学内)・コース内コンテスト…審査員：学外1~2名

：産学連携

- ・プリント工場とのデザイン提案
リピートデザインした作品を適切な生地に捺染を行う。展示や商品化を目指す。
- ・五反田 TOC 展示
織物作品の展示をし、デザイナー・バイヤーから評価を得る。
- ・アカツキ商事株式会社 制服テキスタイルデザイン・スカートチェック柄の提案
優秀作品を試織していただく他、実際の制服化を目指してプレゼンテーションを行う。

：評価基準(テキスタイルデザインⅢ・Ⅳ、ダイイングテクニクⅢ・Ⅳ、プリントデザイン演習Ⅰ・Ⅱ、ニットイングⅠ・Ⅱ、画像表現演習Ⅰ・Ⅱ、素材分析実験)

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢	…10%
基礎課題	…20%
応用課題(完成度)	…50%

プレゼンテーション能力 …20%

: 評価者

(学内) テキスタイル科目担当者が評価

(学外) なし

4年次：専門コースの卒業年次における学力到達目標

卒業制作：織物、ニット、プリント領域で取得した知識、技術、感性を駆使して制作する。
自分のテーマ・デザインに沿って素材の選択、技法の選定、制作プロセスの検討を自ら行う。
試作のトライ&エラーの中から導き出した方法によって、イメージした作品を自立して完成させ、プレゼンテーションすることができる。またアパレル素材として訴求できるテキスタイルの専門的知識（テキスタイル商品学）を身につける。

作品：

- ・テーマやコンセプトに沿ったデザインを具体的に表現できる能力。

ポートフォリオ：

- ・作品制作プロセスの記録、まとめる力、作品を客観的に評価し、デザインソースなどを含めポートフォリオにまとめる能力。

プレゼンテーション能力：

- ・制作における発想から作品制作までをまとめプレゼンテーションをする。
- ・空間を把握し、適切な展示をする。

: 企業の実務認識をもつ

- ・テキスタイル産地企業見学（日帰り）

: 学部評価としての検定

- ・色彩能力検定2級（選択）
- ・繊維テキスタイル認定2級（選択）
- ・ジーンズソムリエ・タオルソムリエ（希望者）

: コンテスト参加（希望者）

(学外) ・ジャパンテキスタイルコンテスト 主催：一宮市、尾西毛織工業協同組合その他
後援：経済産業省（希望者）

: 評価基準

卒業制作Ⅰ・Ⅱ（テキスタイル）、テキスタイルデザインⅤ

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢 …30%

作品制作（デザインと設計との整合性、設計と素材との整合性、表現・技術、完成度）…50%

プレゼンテーション能力 …20%

: 評価者

(学内) テキスタイルデザインコース4年担当者が評価

(学外) なし

(学外) なし